

# 関西 ECOMAIL 第29号

**関西 ECOMAIL**

関西の学会員のみなさまに、ワークショップのお知らせと環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

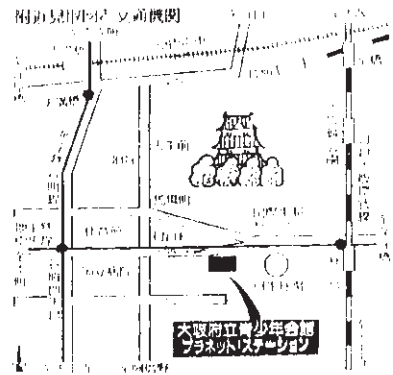
また、学会員以外の方々に、環境教育に関心をもっておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

年間1000円の通信費をいただきましたら、ワークショップの案内と関西 ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振り込み先: 日本環境教育学会関西支部  
郵便振替口座 00990-5-37886)

## 第46回 ワークショップのお知らせ

日時 1996年1月13日(土) 14:30~17:00  
 会場 大阪府立青少年会館(付近見取図 別欄)  
 話題提供者 中村滋(しげる)氏・小浜由美子氏  
 (ネットワーク「地球村」講師)  
 テーマ 「地球と生命」ー自然写真を通してー



### プロフィール

**中村滋氏** 小学生の頃、手作りの天体望遠鏡で見た宇宙の神秘に感動。以来、の不思議体験などから、UFOや古代文明、多次元世界、宇宙エネルギー等に興味を持ち、意識改革による精神文明への転換を唱える。多彩な活動の中で、最近趣味の写真を通じ、数万点にも及ぶスライド(主に生物写真、中でも植物、昆虫は得意。)で環境問題を語る。愛する心、感謝する心の大切さを訴え、真の幸福、万物と調和し共存できる社会の実現を目指して活動中。

**小浜由美子氏** カナダなどがきっかけで、地球環境に関心をもち、現在ネットワーク「地球村」の講師として講演活動を進めている。通訳・翻訳にも携わり、海外にもネットワークを広げつつある。英語学校講師。

ワークショップ後、

世話人会を予定しています。

於 大阪府立青少年会館内

## 第29号 目次

- ・フィールドワークショップ(第44回 10/28)報告  
「溜め池の社会的背景を考える」  
(奈良教育大学 岩本廣美)…2~3
- ・連載企画〈阪神・淡路発!被災地は今〉  
第3回 阪神大震災を経験して  
(神戸市立御影小学校 辰見武宏)…4~5
- ・関西支部第4回研究大会から支部総会報告 …6
- ・関西支部規約 …7
- ・ネットワーク …8



## 溜め池の社会的背景を考える

—— 環境教育の視点から ——

岩本 廣美 (奈良教育大学)

### 1. 溜め池の目的と分布・自然条件

ここでいう溜め池とは、主として、稲作のための灌漑を目的として、農民(組織)の手によって築造された人工的池のことである。日本では、稲作の普及とともに古代からかなりの数の溜め池が築造されてきたと言われる。溜め池には、川に堰を設けて水溜まりを造る場合と、川から離れたところを堰で囲んで川から水を引き池にする場合等があるが、いずれにしても、水田に水を供給するには人工的水路の設置が必要であり、溜め池が灌漑用として機能するには、水路の存在が不可欠である。

白井(1991)によれば、現在日本全国には約9万7千の溜め池があり、とくに西日本の瀬戸内海沿岸地域及び周辺に多い。その理由を、瀬戸内式気候すなわち降水量の少なさに求めるむきもあるが、気候的条件を挙げることでは十分な説明にはならない。本質的には、溜め池の卓越する地域では、耕地利用における水田率が高いことに加えて、この水田を潤すべき河川の水量が少ないことに原因があると言える。奈良盆地は、瀬戸内式気候に区分される地域の東端の一角を占めるが、ここを流れる大和川水系の集水域は水田面積に比べればきわめて狭小であり、溜め池が卓越する地域のひとつになっている。奈良盆地には、1970年代に約5,000の溜め池があったと言われるが、先の白井によれば、現在奈良県全体で約2,500である。

### 2. 溜め池の現代的意義

奈良盆地では、とくに第二次大戦後、大阪市街地の延長として都市化が進行した結果、各地で溜め池の潰廃が進んだ。また、潰されないまでも、もはや水田への灌漑機能を失い、荒廃している溜め池も見られる。しかし、現代においては、溜め池は単に稲作に伴う灌漑施設としてだけでなく、農民が築き維持してきたという歴史的背景を持つ文化財のひとつであると捉えるべきであろう。また、周辺の都市住民の目から見れば、美しい景観やレクリエーションの場を提供してくれる水辺環境としての意義を持つことも見逃せない。ここに、溜め池を環境教育のための絶好の場として捉える視点を見出し得るのである。

### 3. 奈良市街地周辺地域の観察から

奈良市街地周辺にも、数多くの溜め池が分布している。筆者は、このうち旧市街地(通称「奈良町」)から見て南東方面の、春日山・高円山の山麓地域を研究対象地域として設

定(2.5km×3.5km)し、この地域に見られる溜め池の観察を折に触れて行って来た。市街化区域から市街化調整区域にかけて広がるこの地域は、山地及び山麓の緩斜面からなり、率川(いさがわ)・能登川・岩井川の3つの小河川が、東から西の方向に流れている。この3河川及び支谷が、此の地域の溜め池の水源になっており、吉野川分水からの水の供給のない地域でもある。この地域に見られる溜め池には、次のようなタイプのものがある。なお、括弧内は確認し得たものについて、それぞれの数を指している。

○水面が見られる溜め池

- ア. 灌漑用溜め池として機能していて、維持管理も確実になされているもの(7)
- イ. 灌漑用溜め池としていくらか機能しているが、維持管理が不十分なもの(3)
- ウ. 灌漑用としてよりも、レクリエーション用に利用されているもの(2)
- エ. 利用されていないもの(2)

○水面が見られない溜め池

- オ. 溜め池としての形態を留めているが、草が生い茂り荒廃しているもの(1)
- カ. 潰廃されたしまったもの(6)

以上のほかに、形態的に溜め池と似るが、レクリエーション用の池として護岸が整備されているものも奈良公園内には見られる(2)。

上の分類で、水面の有無を問題にしたのは、水辺環境としての意義を考慮したためである。溜め池の機能的実態としてはエとオの差はほとんどないが、水辺環境として見れば違いは大きいということである。また、ウを除いて、都市化に伴う溜め池の潰廃は、アからカの方向に進行していくのが一般的であると言える。ウは溜め池の機能が変化したものと言える。カは、すでに存在していないので、現状だけで判断すれば不要であるが、歴史的経過を見るためには必要なタイプであり、敢えて位置づけた。

溜め池は、川からの水の供給が絶えずなされていてこそ、初めて水辺環境としての意義を持ち得ることに注意する必要がある。そのためには、絶えざる維持管理が必要である。アのタイプの溜め池は、毎年、水利権を持つ農民の手によって、堰や水路周辺の草刈りと水路の底さらい(「川堀り」と呼ばれている)が行われている。農民の永続的な営みによって、溜め池はこれまで維持されてきたことになる。また、この維持管理がストップすれば、短期間のうちに溜め池は荒廃していくのである。したがって、もし、溜め池を灌漑用としてではなく、都市住民がレクリエーション用に利用するとなると、維持管理をいったい誰が実行するのかが、重要な問題になる。

\* \* \* \* \*

フィールドワークショップ当日は、前述の研究対象地域内を筆者と参加者とで歩きながら、さまざまなタイプの溜め池を、計10ていど実地に観察し、討議を行った。

第3回 阪神淡路大震災を経験して

辰見武宏（神戸市立御影小学校教諭）

1. 子どもたちの目～1995.2.8の作文から～

・「ぼくは初めてこの阪神大震災で生き埋めになりました。最初はゆっくり揺れたけど、いきなり揺れが大きくなって、家が崩れました。わずか4・0秒くらいで家が崩れるなんて、今まで思いもしませんでした。それから2～3時間経ってから、助けてもらいました。（中略）やっぱり、自然の力には勝てないんだなと思いました。いい経験をしました。今度いつまた、地震が来るかは分かりません。」（H君）

これは当時担任をしていた5年生のH君の作文である。住んでいたアパートは瓦礫の山となったが、今はもうすっかり更地となり、2～3年後には建物が建つ予定である。

・「震度7の地震は私たちに恨みでもあるように襲いかかってきました。ビックリハウスみたいな揺れがあって、私はタンスの下敷きになっていました。そして、おじいちゃんに助けてもらいました。お父さんがY君の家がつぶれてるぞと言ったので私はビックリしました。あとでおじいちゃんと一緒に見に行ったら、本当につぶれていました。もうだめだと心の中で思っていました。（中略）中学校に避難し、3回目にY君の家に見にいったとき、Y君が出てきたのでよかった。」（Iさん）

ようやく助け出されたY君であったが、一度に両親と姉の3人の肉親を失った。今は、遠く離れた千葉県の叔母のもとで兄とともに元気で暮らしている。

・「私は外に出てはじめて地震の被害がどれだけひどいかがわかりました。まさか家が倒れているとは思いませんでした。それに地震で家が倒れるだけならまだまじけど、その倒れた家から火が出てしまった。しかも私の家のすぐ近所だったので私は必死になって火を消そうとしました。水が出ないので私たちは学校のプールの水を汲んだり、石屋川の水を汲み上げたりして、近所の人たちと一生懸命バケツリレーをして火を消していました。でも、一回消してもまた燃えてくるので何回も何回もバケツリレーをしていて、手はかちこちで、服はびしょびしょで、せっかくのきれいな靴も汚い靴になってしまいました。（中略）さらに次の朝はやく、みんなががやがやとうるさいので目が覚めました。どうしたのですかと聞いてみると津波が来るといわれ、あわてて小学校の体育館を出る準備をしました。それからみんなの行く方向についていき避難した。結局、私たちは御影高校にたどり着いた。私はもうこんなひどいおもいは二度としたくないです。」（Nさん）

学校のすぐ西側の火災はひどく、家も車も何もかも焼き尽くされていた。卒業生の中二の女の子もここで母とともに亡くなっている。

・「次の日の朝、避難勧告が出た。御影浜町のガスタンクが爆発するかも知れないという勧告だった。もし爆発したらどうしよう。家が丸焼けになってしまうかも知れない。とにかく、みんな車に乗って北の方へ避難した。でも、私のところの車だけ違う方向に逃げた。そのうちにだんだんと道が渋滞してきた。だから、また戻って、北の方へ逃げた。私はとても焦っていた。（中略）そのまま、不安な一日を過ごした。まわりを見ると、たくさんの人たちが毛布などを持ってきて座っていた。その後、近くのトイレに行った。するとまだ水が流れていなかったのでも、とても詰まっていた。早く水とか電気とかが流れてほしいなと思った。水が出たら、お風呂にだって入れるし、洗濯だってできる。だから、早く水が来てほしいと思った。そこでここにいてもしょうがないから、池

田の家に来ることになった。でも、来るまでに他の友達にも会いたかった。」(Hさん)

1月18日の早朝、国道2号線よりも上へ避難せよと勧告がでた。情報がじゅうぶんにまわらず、いろんなデマもとびかった。人々は車を降り、毛布や布団を担いで北へ北へとあがっていった。

生き埋め、両親との死別、消火活動、避難勧告、水・電気・ガスなどライフラインの断絶、転校。地震直後、今まで思いもしなかったような予測できない出来事が子どもたちに次からつぎへと襲いかかった。子どもたちにとって、地球は、自然は、やさしいゆりかごではなくなったのである。

## 2. その後の学校教育

我が校の児童は514名いた。震災で家屋が全半壊、一部損壊となった児童はあわせて300名にもものぼる。震災後、転校していった児童は200名強おり、全国の各地へと散りちりとなった。そして、無念であるが小さな6名の尊い命は震災の犠牲となった。

学校が再開できたのは2月6日であった。この日、通学した児童は268名であった。避難所から通学した子も70名ほどいた。しばらくの間、午後から3時間の授業を続けた。時折、余震がくると「今のは、震度2ぐらいやな。」とみなであてっこもした。また、大きな物音がただけで条件反射的に余震と思い、子どもたちは肝をつぶすおもいをしていた。

しかし、その反面、子どもたちはずいぶんたくましくなった。「寒い中、重い水くみをごんばってくれた」「環境の違う学校でカルチャーショックをうけて、早く御影に戻りたいといいながらも新しい友達をたくさん作って終業式までがんばった」「日頃、けんかばかりしている兄弟が親の言うことを聞いて仲良く助け合っていた」など親の心の支えとしても、子どもたちはがんばってきた。

年度が変わりクラス替えをしたが、運良く6年生に持ち上がりとなった。

理科の単元「地層のでき方」の中で「鳴動する大地」というビデオを見せた。その中に地震や火山のシーンが何度か出てきたが、地震の場面では顔を背ける女の子もいた。授業後、全員に感想を書かせてみた。「とにかく火山の爆発がすごかった。自然の力はすごいんだなあと思いました。」(H君)、「いろいろな国でも地震や噴火が起こっているからどこの国に逃げてみてもだめだと思った。」(E君)、「自然災害というのはすごく怖いと思う。なぜなら、予測することもできなければ、とめることもできないからだ。自分が実際にそういう目にあったからその大変さがより一層分かったと思う。自然災害はやっばり怖いと思う。」(Iさん)

子どもたちにとって刺激が強すぎたようであるが、どの子も映像を現実問題として、真っ直ぐに受け取っている。震災の影響と子どもたちの感性の鋭さを感じさせられた。

心のケアや環境教育としては何も特別なことはできていないが、自然に対して、できる限り楽しみを持てるようにと配慮をしてきた。「イチゴを育てよう、どんぐり工作、駒を作ってみよう、虫を飼ってみよう。」といろいろと誘いかけをしてきた。

「子どもエコクラブ」を紹介し、アースレンジャーとなれるようにクラス全員で入会した。なかなか活動は進まず開店休業状態に近い。しかし、先日、「エコクラブに入ってから自然が好きになってきた。」とIさんがいつてくれた。一つのきっかけとして重要な役割を果たしているようである。また、NTT自然とマルチメディアにも参加し、送られてきたファックスを増し刷りして、子どもたちとともに楽しんでいる。

さて、春にはよいよ卒業式を迎える。3学期は子どもたちにトンボ池かミニサンクチュアリを作らないかと相談を投げかけるつもりである。

ご意見、ご質問、アドバイスはGFG01610@niftyserve.or.jpまで

## —— 関西支部規約ができました ——

今年の関西支部第4回研究大会で初めて関西支部総会を開催し、関西支部規約が決定されました。

これまでの支部の運営は、年1回の研究大会における例会（関西エコメールを購読する学会会員と購読会員による集会）で承認された世話人会が行って来ました。しかし全国各地で支部設立の動きがあり、また関西支部としても、地域との関連で独自の活動をしていくためには、支部規約とそれに基づいた支部代表が必要となって来ました。このような情勢を踏まえて、今大会では支部規約の成立を目的として、とくに学会会員による支部総会を開催しました。規約草案は、世話人会で選ばれた5名のワーキング・グループによって作成されました。総会には29名の学会会員が出席し、賛成25で関西支部規約を可決しました。

なお、関西支部が設立されて5年余りを経過していますが、今回が第1回総会となります。以後、支部規約に基づいた運営に移行しますが、当面は暫定的にこれまでの世話人会によって、弾力的に運用することを申し合わせました。また「関西エコメール」の購読会は、従来通りです。

### ● 関西支部世話人を公募します ●

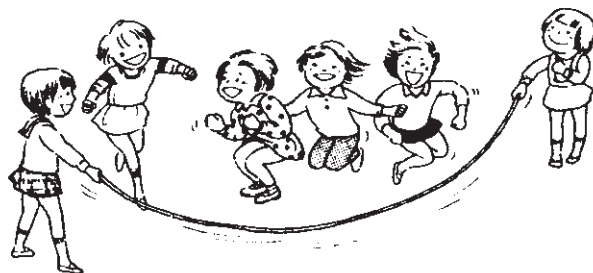
支部規約第7条に基づいて、学会会員より関西支部世話人を募集します。関西各地域から、すすんで応募して下さい。

\*

応募手続きは1996年1月末日までに、事務局に電話又はFAXで申し出て下さい。

\*

応募される方は、連絡先住所（自宅か職場）TEL/FAXをお忘れなく。



# 日本環境教育学会 関西支部規約

## 第1条「名称」

本会は日本環境教育学会 関西支部と称する。

## 第2条「事務局」

本会に事務局を置く。その所在地については別に定める。

## 第3条「目的及び活動」

本会は環境教育の推進を目的とし、関西地域を中心に以下の活動を行う。

- (1) ワークショップ・シンポジウム・研究大会等の開催。
- (2) ニュースレター（関西エコメール）などの発行。
- (3) 環境教育の理論・実践等に関する情報・人材の交流。
- (4) その他、目的を達成するための出版等必要な事業。

## 第4条「支部会員の構成」

本会は日本環境教育学会の会員で、支部会員の申請をした者をもって構成する。

## 第5条「会費」

構成員は、通信費・印刷費等の会費を負担する。会費の額については別に定める。

## 第6条「総会」

年に1回、定期総会を開く。総会は会員の10分の1（委任状提出者を含む）の出席をもって成立とする。総会での議決は出席者の過半数とする。

## 第7条「組織」

### (1) 世話人会

本会に支部を運営する世話人会を置く。世話人は支部会員の中から公募する。任期は1年とし、継続はこれを妨げない。

### (2) 支部長

本会に支部を代表する支部長を置く。支部長は世話人の中から互選する。

### (3) 委員会

支部長を補佐し、目的と活動を遂行するために、世話人会の中に委員会を置く。委員は世話人の中から支部長の指名によって選出する。委員会は、企画・広報・事業等に分かれてそれぞれの役目を果たす。

## 第8条「規約改正」

規約の改正は世話人会で原案を作成し、総会で承認を得る。

## 付則

この規約は1995年12月 9日から施行する。



第4回研究大会が、1995年12月9日(土)、奈良産業大学で開催されました。  
特別講演1件、シンポジウム(基調講演1件、パネル・ディスカッション報告3件)、  
総研究報告22件、パネル展示5件、他が行われました。参加者は138名でした。大会  
に関する詳しい報告は、次号の「関西エコメール」で行います。

大会冊子(B5版、58ページ)が必要な方は、冊子代500円(切手可)と宛先を明記  
し270円分の切手を貼ったB5版以上の大きさの封筒を、下記大会実行委員会事務局まで  
お送り下さい。冊子には、上記すべての講演・報告・展示の予稿および大会プログラムが収  
録されています。

関西支部第4回研究大会実行委員会(実行委員長 御勢久右衛門)  
事務局:636年駒部三郷町立野北3-12-1 奈良産業大学 井上研究室

## 参加者募集

### 日中共同環境教育シンポジウム北京大会

■12億の国民と環境教育 国民は何ができるか? ■  
開催日:1996年3月14日(水)~16日(土)

※学会事務局からも案内がありましたが、関西空港発の参加者の募集をしま  
す。ツアーは3月13~18日(5泊6日)で費用は122,000円 現在、関西  
から7名前後の参加者が予定されており、10名になると関西からの出発が  
可能になります。学会員以外の参加も可能です。皆さん一緒に北京に行きま  
しょう。

詳細は関西支部事務局まで。早めの連絡をお待ちしております。

### 環境シンポジウム

日時:平成8年1月21日(日) 午後1時~5時  
場所:近畿大学 15号館 第1教室(東大阪市小若江3-4-1)  
内容:(1)基調講演 テーマ「身近なところからの環境保全活動」  
講師 榎村久子氏(奈良文化女子短期大学教授)  
(2)シンポジウム(原田氏他のパネラーによる)  
主催:日本ボーイスカウト大阪連盟

### 「文明論」塾生募集

先般来、世話人会に話題提出していただきました所の「文明論」塾を下記の要  
領にて開催致しますので、「塾生」を希望される方は関西支部事務局まで  
申し込み下さい。

#### 記

内容:「日本の優生学」の輪読とその著者鈴木善次氏を囲んでの楽しい  
チャット  
日時:3月25日(月)<予定>  
場所:「アウィーナ大阪」内『ラ・フィーネ』  
費用:お茶菓子代(15時まで)、飲み代(15時以降)3000円程度  
定員:10名程度  
次回の予定はこの日に計画します。

推薦:関西支部 世話人会

## 関西ECOMAIL

第29号 1995年12月30日発行

編集 日本環境教育学会 関西支部 世話人会

発行 日本環境教育学会 関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室) 気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1 (☎&FAX 0729-78-3381[直通])

次回 第30号 1996年2月26日発行予定 原稿締め切り2月15日